

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		-	一人当たりの公園面積(大森町)	当該地区の東側に位置する大森町は、公園の整備率が低く、その整備を必要としていた。また、今後一層の市街化が見込まれることから、街区公園の整備を追加し、地域コミュニティや身近な憩いの場を確保するとともに、地区の防災性、景観の向上を図り、目標である安全で快適な生活環境の形成を示す指標として追加した。
C. 目標値		●			
D. その他(区域の拡大)	●		千葉県千葉市中央区白旗3丁目の全部と南町2丁目、宮崎2丁目、宮崎町、大森町の一部 面積 74.1ha	千葉県千葉市中央区白旗3丁目の全部と南町2丁目、宮崎町、大森町、松ヶ丘町、仁戸名町の一部 面積 140.9ha	当該地区北東側に位置する仁戸名町は、重要医療機関等があり、南町宮崎町線及び大森台駅前広場の整備に併せ主要地方道千葉大網線の整備を行うことにより、交通結節機能が強化し、日常時の利便性の向上や災害時等の迅速な対応が図れることから、事業区域を拡大した。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	1,082	L=600m	1,082	L=600m	なし	—		
道路	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	200	L=1,050m	200	L=1,050m	なし	—		
道路	都市計画道路源町大森町線整備事業	858	L=280m	858	L=280m	なし	—		
道路	市道仁戸名町16号線他整備事業	875	L=1,460m	210	L=1,460m	事業費の精査による事業費減	影響なし		
道路	主要地方道千葉大網線整備事業	0	なし	25	L=170m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	主要地方道千葉大網線バスベイ整備事業	0	なし	37	L=80m	平成20年8月に計画変更して追加	バス利用者の拡大の指標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	都市計画道路中央赤井町線整備事業	0	なし	4	L=60m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	都市計画道路中央赤井町線道路案内標識整備事業	0	なし	4	1基	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	市道宮崎町74号線整備事業	0	なし	11	L=110m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	(仮称)市道宮崎町449号線整備事業	0	なし	12	L=50m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	市道宮崎町29号線他1整備事業	0	なし	2	L=100m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	市道仁戸名町78号線整備事業	0	なし	2	L=100m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
道路	市道白旗9号線他2整備事業	0	なし	11	L=130m	平成20年8月に計画変更して追加	交通環境改善の目標に関係するが、数値目標は据え置く。		●
公園	(仮称)大森町街区公園整備事業	0	なし	137	A=1,232㎡	平成18年8月に計画変更して追加 平成20年8月計画変更	安全で快適な生活環境の形成を定量化する指標として新たに「一人当たりの公園面積(大森町)」を追加した。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	京成大森台駅前広場他整備事業	1,625	A=10,400㎡	610	A=7,100㎡	整備面積及び事業費の精査により変更	影響なし		
地域生活基盤施設	(仮称)石橋記念緑地整備事業	0	なし	63	A=13,400㎡	平成18年5月に計画変更により追加 平成20年8月に計画変更	安全で快適な生活環境の形成の目標に関連し、市民が快適に自然にふれあえる憩いの場として追加するが、数値目標は据え置く。		●
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)				目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	H19	12	モニタリング	×	あり	なし			
指標1	分	平日午前9時頃に普通自動車 で法定速度にて走行し(京成大森 台駅を起点とし、市道仁戸名町 16号線・中央赤井町線を経由し、 終点の二次医療施設(川鉄千葉 病院)まで)、走行時間を計測し求 める。	12	H11	12	H16	6	H20	モニタリング	H19	12	モニタリング	×		●	
									事後評価	確定	10	事後評価	△			
指標2	人	自治会代表者等で構成する「ま ちづくり懇談会」委員のヒアリン グにより、地域住民の道路環境 改善活動人数を把握する	0	H11	0	H16	200	H20	モニタリング	H19	0	モニタリング	×		●	
									事後評価	確定	24	事後評価	△			
指標3	人	大森台駅停留所における平日 一日(特定の日)の乗降客数 を実測する。	140	H11	140	H16	280	H20	モニタリング	H19	140	モニタリング	×		●	
									事後評価	確定	146	事後評価	×			
指標4	台	平日の午前10時ごろ、自転車 駐輪場以外の京成大森台駅付 近に駐輪・放置されている自転 車数を計測する。	202	H11	193	H16	0	H20	モニタリング	H19	193	モニタリング	×		●	
									事後評価	確定	103	事後評価	△			
指標5	m2/人	住民基本台帳をもとに把握した 町丁別人口と、供用済み及び工 事中の公園面積から評価時点 の公園面積を推計し評価値を求 める。	0.61	H11	0.59	H16	0.87	H20	モニタリング	H19	0.59	モニタリング	×		●	
									事後評価	確定	0.84	事後評価	△			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	都市計画道路南町宮崎町線及び源町大森線が用地買収難航のため全面供用に至らなかったが、既存ルートである仁戸名町16号線の歩道整備により、歩行者の安全性向上に伴う走行性の向上が見受けられることから、同路線を走行した際における到達時間の短縮を評価し△とした。	ある1日での区間走行時間の実測値を指標としたが、一般道で様々な交通阻害要因がある中、従前値と評価値を同じ条件で計測することが非常に困難であり、単純に比較することに問題があると思われる。
指標2	活動の場を期待した南町宮崎町線整備事業が用地買収難航のため進捗せず、懇談会の重点テーマにできなかったことが直接的要因となり、指標の改善ができなかったが、活動の実施に向け、継続的に推進活動を行っている懇談会の委員を評価し△とした。	
指標3	南町宮崎町線・京成大森台駅前広場が用地買収難航のため供用に至らず、バス利用者が現状にとどまっているため×とした。	
指標4	駐輪場の利用環境改善を見込んでいた駅前広場が用地買収難航のため供用に至らなかったが、注意喚起看板等の取り締まり強化により減少した放置自転車数を評価し△とした。	
指標5	(仮)大森町街区公園を整備することにより目標に近づけることはできた。一年以内にこれ以上の改善見込みのないことから△とした。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	公園緑地面積の拡充	%	南町宮崎町線沿道地区面積に対する、地区内の供用公園緑地面積の割合により算出する。公園緑地面積は管理台帳より把握する。	-	-	2.4%	H16	モニタリング		地区内の安全で快適な生活環境の向上を図る指標として設定した。「指標5:一人あたりの公園面積(大森町)」は地区の一部に限定されていることから、本指標により地区全体の生活環境向上を説明する。	指標5を補完
								事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標2	事業に対する地域住民の認知度	自治会	まちづくり懇談会での情報を提供した自治会数を計測する	-	-	0	H16	モニタリング		地域コミュニティの連携を示す指標として設定した。地区内及びその周辺の自治会に懇談会の情報を提供し、共通認識をってもらうことにより、地域コミュニティの連携を向上させる。	指標2を補完
								事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標3	地域間における空白エリアの住居増加	戸	南町宮崎町線新設区間に隣接する自治会(開発中のエリアも含む)の戸数を計測する。	-	-	788	H17	モニタリング		地域コミュニティの連携を示す指標として設定した。地域コミュニティが分断されている空白エリアに居住者が増加することで、地域コミュニティの連携の向上につながる。	目標1を補完
								事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標4	大森台駅乗降客数	人	大森台駅の乗降客数を鉄道事業者からの情報により把握した人数とする。	3,104	H7	2,668	H16	モニタリング		駅乗降客数を把握し、交通結節機能の強化を示す指標として設定した。	目標3を補完
								事後評価	確定見込み ●		
その他の数値指標5	大森台駅に通じる既存主要道路の歩行空間の平滑化	%	仁戸名町16号線の整備区間の距離に対する、歩行空間が平滑化された距離の割合を算出する。	-	-	33	H16	モニタリング		交通結節機能の強化を示す指標として設定した。交通結節点までの、移動を円滑にすることで交通結節機能の向上につながる。	目標3を補完
								事後評価	確定見込み ●		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<ul style="list-style-type: none"> 公園緑地の整備により地域コミュニティの場が提供できた。 まちづくり懇談会の開催により、まちづくりの情報を地域に広く提供でき、住民のまちづくりに対する意欲も向上した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
交付期間中(中間期)におけるモニタリングの実施	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した ● 予定したが実施できなかった(理由)	①実施頻度【1回/5年、計1回】 ②実施時期【平成19年6月～9月】 ③実施の結果: 事業途中で数値指標を計測することが困難なものが多く、従前値をモニタリング値とせざるを得なかった。	事業の途中段階においても、改善状況を容易に確認できる指標設定を行う。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
南町宮崎町線沿道地区まちづくり懇談会	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)	①実施頻度【3回程度/年、計9回】 ②実施時期【平成17年12月～平成20年3月】 ③実施の結果: 大森台駅前広場のレイアウトについての検討、仁戸名町16号線の整備方針の検討、道路環境改善活動の具体内容の検討等を行った。	これまでの検討内容や整備状況を踏まえ、懇談会を継続する。(3回程度/1年)
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
まちづくり懇談会の設立と定期開催	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)	・地区連協会長等へ懇談会の趣旨を説明し会員の選出を依頼 ・会員候補者に懇談会の趣旨についての説明会を実施	南町宮崎町線沿道地区まちづくり懇談会 まちづくり交付金にて行う事業の計画実施等に向け協議を行う。	住民の直接的な意見を聞く場とし事業中だけでなく、今後も定期的に懇談会を開催し持続的な組織への移行を図る。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった(理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
南町宮崎町線沿道地区事後評価検討チーム	関係各課主任級職員(街路建設課、道路計画課、まちづくり推進課、公園建設課)	第1回 平成20年8月28日 第2回 平成20年9月5日	街路建設課 (南町宮崎町線沿道地区代表課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他数値指標1		その他数値指標2		その他数値指標3		その他数値指標4		その他数値指標5	
指標名		公園緑地面積の拡充		事業に対する地域住民の認知度		地域間における空白エリアの住居増加		大森台駅前乗降客数		大森台駅に通じる既存主要道路の歩行空間の平滑化	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	-	災害時の避難場所(一次集合場所等)になりうる規模を有する公園・緑地の新規整備により、地区内の安全で快適な生活環境の向上を図ることが出来た。	地区内及びその周辺の自治会に懇談会の情報を提供し、共通認識をもってもらうことにより、地域コミュニティの連携を向上が図れた。	○	南町宮崎町の整備に伴い、宅地開発が行われ、新たに居住者空間ができたことにより、空白エリアにも地域コミュニティの場が出来たことが、地域コミュニティの連携の向上につながる。	○	駅乗降客数が増加傾向であり、周辺道路の整備による交通結節機能が向上している。	◎	既存主要道路の交通結節点までの移動経路における歩行空間を平滑化することにより、円滑な移動が可能になり、交通結節機能の向上が図れた。	
	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	-									
	都市計画道路源町大森町線整備事業	-									
	市道仁戸名町16号線他整備事業	-									
	主要地方道千葉大網線バスベイ整備事業	-									
	主要地方道千葉大網線整備事業	-									
	都市計画道路中央赤井町線整備事業	-									
	都市計画道路中央赤井町線道路案内標識整備事業	-									
	市道宮崎町74号線整備事業	-									
	(仮称)宮崎町449号線整備事業	-									
	市道宮崎町29号線他1整備事業	-									
	市道仁戸名町78号線整備事業	-									
	市道白旗9号線他2整備事業	-									
	(仮称)大森町街区公園整備事業	◎									
京成大森台駅前広場他整備事業	-										
(仮称)石橋記念緑地整備事業	◎										
提案事業	(仮称)石橋記念緑地整備事業	◎	-	-	-	-	-	-	-	-	
	整備効果検討調査	-	-	◎	-	-	-	-	-	-	
	事業効果分析	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
関連事業											

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	適切な維持管理を行い快適な環境維持に努める	まちづくり懇談会を引続き行い、継続的な情報提供を行っていく	さらに地域の発展に貢献するよう、主要幹線道路等の整備を促進する	駅前広場の整備を促進し、さらなる交通結節機能強化を図る。	適切な維持管理を行い快適な環境維持に努める。また、未整備箇所については、引き続き整備を行っていく。
-------	-----------------------	-------------------------------	---------------------------------	------------------------------	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標3			指標4			指標5		
指標名		二次医療施設へのアクセス向上			地区コミュニティ活動の定着			バス利用者数の拡大			放置自転車の減少			一人当たりの公園面積(大森町)		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	××	目標ルートである南町宮崎町線は用地買収が難航しているため、全面供用に至らなかった。しかし、従前ルートである仁戸名町16号線の歩道整備により、歩行者の安全性を向上させることで車両通行性の向上に寄与していると考えられる。このため、従前値に対し短縮効果があった。	I	×	活動の場を期待した南町宮崎町線整備事業が用地買収難航のため進捗せず、懇談会の重点テーマにできなかった。このことが直接的要因となり、指標の改善ができなかった。しかし、活動の実施に向け、懇談会の委員(24人)の方々を中心に活動の推進を継続的に行っている。また、石橋記念緑地の整備については、別途ワークショップを開催し市民の意見を反	I	××	交通結節機能強化を期待した大森台駅前広場整備事業が用地買収難航のため進捗しなかった。このため指標の改善ができず、バス利用者数は現状の維持にとどまったものの、バスベ이의整備等を行い利便性の向上が図れた。	I	×	駐輪場の利用環境改善を見込んでいた駅前広場が用地買収の難航により完成しなかったことが未達成の直接の要因である。ただし、注意喚起看板等の設置により違法駐輪者への効果があったと考えられる。	I	-	(仮)大森町街区公園を整備したことで未達成ではあるものの目標値近くまで指標を改善することができた。未達成の直接要因は、合意形成プロセスの不十分な対応により目標値を達成し得る公園用地を確保できなかったことによる。	I
	都市計画道路南町宮崎町線整備事業	××			×			××			×					
	都市計画道路源町大森町線整備事業	××			×			××			×					
	市道仁戸名町16号線他整備事業	△			-			-			-					
	主要地方道千葉大綱線バスベイ整備事業	-			-			△			-					
	主要地方道千葉大綱線整備事業	-			-			-			-					
	都市計画道路中央赤井町線整備事業	△			-			-			-					
	都市計画道路中央赤井町線道路案内標識整備事業	△			-			-			-					
	市道宮崎町74号線整備事業	△			-			-			-					
	(仮称)宮崎町449号線整備事業	△			-			-			-					
	市道宮崎町29号線他1整備事業	△			-			-			-					
	市道仁戸名町78号線整備事業	△			-			-			-					
	市道白旗9号線他2整備事業	△			-			-			-					
	(仮称)大森町街区公園整備事業	-			-			×			-					
京成大森台駅前広場他整備事業	-	-	×	××												
(仮称)石橋記念緑地整備事業	-	-	×	-												
提案事業	(仮称)石橋記念緑地整備事業	-			-			-			-			-		
	整備効果検討調査	-			△			-			△			-		
関連事業	事業効果分析	-			-			-			-			-		
		-			-			-			-			-		

※目標未達成への影響度
 ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	街路整備は、指標達成に不可欠であり、事業を継続し、二次医療施設へのアクセス向上を図りたい。	懇談会の重点テーマに取り上げ、引続き懇談会役員等によるコミュニティ活動の推進、イベント等を開催しコミュニティ活動へのきっかけづくりなどを行い、地域コミュニティの定着を図りたい。	街路・駅前広場整備は、指標達成に不可欠であり、事業を継続し、バス利用者数の拡大を図りたい。	駅前広場整備は、指標達成に不可欠であり、事業を継続し、放置自転車の解消を図りたい。	既存・新設公園を快適に利用できる環境を維持する。
	・道路整備の推進	・地元主体での活動への呼びかけ ・市主催によるイベント開催によるきっかけづくり	・道路整備の推進 ・駅前広場整備の推進	・駅前広場整備の推進	

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
南町宮崎町線沿道地区事後評価検討チーム	関係各課主任級職員(街路建設課、道路計画課、まちづくり推進課、公園建設課)	第1回 平成20年8月28日 第2回 平成20年9月5日	街路建設課 (南町宮崎町線沿道地区代表課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
崖上の京成大森台駅周辺地域と崖下のJR蘇我駅周辺既成市街地との地域コミュニティの連携が不足している	コミュニティ活動を支える基盤として地区内の自治会長等から構成されるまちづくり懇談会を立ち上げ、地域代表者による定期的な活動が行えた。	道路環境改善等の地域住民レベルのコミュニティ活動の定着 地域コミュニティ間の移動時間を短縮する南町宮崎町線の整備	現在、懇談会の会員は自治会長等で構成されるが高齢者が多く、懇談会を軸とした活動(道路環境改善等)を行っていくには、現会員にはかなりの負担である。このため、活動のキーパーソンとなる若手の懇談会への参加が必要になってくる。
京成大森台駅前広場が無く、交通結節機能、都市機能が不足している	駅前広場整備に必要な用地のうち、約49%の用地を取得した。	交通結節機能を強化するための、京成大森台駅前広場の供用	
生活道路の整備水準が低く、密集市街地の防災環境が悪い	生活道路の整備及び地域の主要道路である仁戸名町16号線の歩行空間を改善し、車両・歩行者通行の阻害要因を減少させたことにより、緊急車両等の走行環境が向上していると考えられ、防災環境の向上にも寄与している。	未改善の生活道路の整備を行い、さらに防災環境を向上させ、緊急車両の円滑な通行が図れる環境を整える必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	地域コミュニティ連携の持続	まちづくり懇談会を定期的を開催・持続させていく。	まちづくり懇談会運営
	道路の維持管理	道路を快適に利用できる環境を維持する。	道路清掃・補修等

B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	地域コミュニティ活動の定着	懇談会役員等によるコミュニティ活動の推進、イベント等を開催しコミュニティ活動へのきっかけづくりなどを行い、地域コミュニティの定着を図る。	・まちづくり懇談会運営 ・イベント開催
	交通結節機能・都市機能の向上	駅前広場の供用は交通結節点機能を強化し自家用車から公共交通への転換を図るため必要である。また、放置自転車に対する抜本対策として駅前広場内の駐輪施設整備を早期に進める。	・駅前広場の整備 ・駐輪場の整備 ・バス発着場の設置等
	防災環境の向上	災害時における緊急活動を円滑に行えるよう、生活道路の有効幅員の拡大、未舗装道路整備等を行い防災環境を向上させる。	道路整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

目標のほとんどが達成できなかったことから、ハード面の整備にたよりすぎず、ソフト面にもウェイトを置いたまちづくりが重要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画					
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項			
指標1	二次医療施設へのアクセス向上	分	12	H16	6	H20	確定	見込み	10	△	あり	なし	平成21年5月	平成21年3月に車両走行による計測を行い確定値とする。		
指標2	地区コミュニティ活動の定着	人	0	H16	200	H20	確定	見込み	24	△	あり	なし	平成21年5月	自治会代表者等で構成する「まちづくり懇談会」委員のヒアリングにより、平成21年3月末までの地域住民の道路環境改善活動人数を把握し、確定値とする。		
指標3	バス利用者の拡大	人	140	H16	280	H20	確定	見込み	146	△	あり	なし	平成21年5月	平成21年3月における大森台駅停留所における平日一日(特定の日)の乗降客数を計測し確定値とする。		
指標4	放置自転車の減少	台	193	H16	0	H20	確定	見込み	103	△	あり	なし	平成21年5月	平成21年3月に、自転車駐車場以外の京成大森台駅付近に駐輪・放置自転車数を計測し確定値とする。		
指標5	一人当たりの公園面積(大森町)	m2/人	0.59	H16	0.87	H20	確定	見込み	0.84	△	あり	なし	平成21年5月	平成21年3月末において住民基本台帳の町丁別人口、管理台帳により供用公園面積を把握し確定値を求める。		
その他の数値指標1	公園緑地面積の拡充	%	2.4	H16			確定	見込み	3.8				平成21年5月	平成21年3月末において管理台帳により供用公園面積を把握し確定値を求める。		
その他の数値指標2	事業に対する地域住民の認知度	自治会	0	H16			確定	見込み	89							
その他の数値指標3	地域間における空白エリアの住居増加	戸	788	H17			確定	見込み	926				平成21年5月	平成21年3月末において、開発後の建築戸数を計測し、確定値を求める。		
その他の数値指標4	大森台駅乗降客数	人	2,668	H16			確定	見込み	2,794				平成21年5月	平成21年4月末において、鉄道事業の情報により確定値を求める。		
その他の数値指標5	大森台駅に通じる既存主要道路の歩行空間の平滑化	%	33	H16			確定	見込み	90							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		・毎年データが算出できる指標を選定するとモニタリングが容易となるため、指標を設定する際には計測のことも考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	設定した指標の多くが計測の困難なものであったため、モニタリング実施時に達成度の確認できない指標があり苦慮した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		・都市再生整備計画の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。
	うまくいかなかった点	安全で快適な生活環境の形成を示す指標の設定が指標5の大森町のみの限られた区域での公園整備面積としたため、他の場所で行っている緑地整備等が指標に反映できなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		・整備計画の策定を行うに当たり、事前に地域住民の意見を聞くことで、地域の抱える課題を正確に捉える事に努める。
	うまくいかなかった点	当初整備計画の策定において地域住民の意見をきく機会を設けられなかった。	
その他	うまくいった点		目標、指標、事業の関連性を明確にしておき、数値目標についても、わかりやすさに重点をおくことが必要である。
	うまくいかなかった点	目標と指標の関連性が分かりづらく、さらに指標と事業の関連性もわかりづらいものとなってしまった。	

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

今後のまちづくり交付金の活用予定
 本市においては、交通環境の改善を行う次期計画地区として、当地区のほか新港横戸町線沿道地区、村田町線沿道地区を予定している。当地区の経験を次期都市再生整備計画の作成に活かしていく。

今後、事後評価を予定する地区
 本市においては、平成21年度に誉田駅周辺地区、仁戸名・川戸地区、千葉中央第六周辺地区の3地区において事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成20年10月10日 ～10月24日	平成20年10月10日 ～10月24日	担当課への 持参、郵送、FAX、電子 メール	まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管 課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原 案を公表し、担当課窓口で閲 覧できる旨を掲載	平成20年10月1日発刊 市政だより10月1日号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課窓口での閲覧	平成20年10月10日 ～10月24日	平成20年10月10日 ～10月24日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	岡部 明子 千葉大学工学部准教授(都市政策) 委員長	平成20年11月17日 平成20年11月26日	まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管課)	千葉市まちづくり交付金 評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	栗田 和夫 NPO法人はさま・まちづくりの会専務理事/ 事務局長(市民参加とまちづくり、土地区画 整理事業の経営) 亀山 典子 (株)日本総合研究所主任研究員(行政評価)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	特になし
	実施過程の評価	特になし
	効果発現要因の整理	特になし
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	妥当である
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし
	フォローアップ	特になし
	その他	住民の方たちの協力を得ながら、意見を取り入れるように今後の事業につなげていってほしい。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	おおむね妥当である
その他	当初計画からどう変更があったのかということを知りやすく説明することが必要なのではないか。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第3回変更)

みなみちようみやざきちようせんえんどうちく
南町宮崎町線沿道地区

ちばけん ちばし
千葉県 千葉市

平成20年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	千葉市	地区名	ミナミチヨダヤザキチヨウケンエンドウ チク 南町宮崎町線沿道地区	面積	140.9 ha
-------	-----	------	-----	-----	-------------------------------------	----	----------

計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

大目標 : 地区内都市軸の形成と交通環境改善による、生活環境の向上

- 目標1: 地域コミュニティの連携
- 目標2: 安全で快適な生活環境の形成
- 目標3: 交通結節機能の強化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

当該地区は、崖地から谷地部への傾斜地を形成している為、周辺より取り残されてきた区域であると共に、経済・生活圏は個々に異なり、近くて遠い地域コミュニティを形成せざるを得ない状況である。崖上においては、道路が唯一の交通手段であったが、近年、京成電鉄千原線大森台駅ができ交通結節拠点は完成した。しかし、駅前広場が無く、違法駐輪が増え、また、バスも1ルート等、結節点機能を発揮させる為には、インフラ整備が立ち遅れている状況である。また、崖下においては、JR蘇我駅を中心とする市街地形成が出来上がっているが、蘇我臨海副都心の事業が進むにつれ更なる機能充実が求められるものとなってきた。千葉都心端部のため、民間開発による地区整備も進んできていると共に、両駅を中心とする都市機能・交通結節機能のほか、京葉道路や国道16号(旧千葉バイパス及び湾岸線)との交通アクセス強化が必要な地区である。

課題

- ・崖上の京成大森台駅周辺地域と、崖下のJR蘇我駅周辺既成市街地との地域コミュニティの連携が不足している
- ・京成大森台駅前広場が無く、交通結節機能、都市機能が不足している
- ・生活道路の整備水準が低く、密集市街地の防災環境が悪い

将来ビジョン(中長期)

- ・既成都心地区と新業務地区との連携を図りながら、千葉都心の都市機能の充実・強化を図ると共に、新たな蘇我副都心の育成・整備を進める地域づくりを目指している
- ・道路・住環境等身近な生活基盤の整備による快適な生活環境を整えると共に、災害に強いまちづくりを進める
- ・文化施設等のストックを生かし、充実を図るほか、中心市街地の活性化等による商業機能の育成・強化、地区コミュニティの振興を図る

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
二次医療施設へのアクセス向上	分	時間短縮	地域コミュニティの連携を示す指標とする。京成大森台駅周辺からJR蘇我駅周辺の連携がされていないことから、一つのコミュニティ形成を図るため、2次医療施設へのアクセス向上を目指す	12分	平成16年度	6分	平成20年度
地域コミュニティ活動の定着	人	道路環境改善活動への参加者	地域コミュニティ活動の実施を示す指標とする。地区内都市軸となる南町宮崎町線の沿道環境改善活動を地域コミュニティ活動の第一歩とし、継続的な地域コミュニティ活動を推進する。	0人	平成16年度	200人	平成20年度
バス利用者数の拡大	人	バス乗降客数	交通結節点機能の強化を示す指標とする。京成大森台駅における交通結節機能の強化に向けて、公共交通利用者(バス利用者)数を指標とする。整備後の実測値で2倍になることを見込む。	140人	平成16年度	280人	平成20年度
放置自転車の減少	台	放置自転車数	交通結節点機能の強化を示す指標とする。京成大森台駅前の交通結節機能の強化に向けて、駅周辺の放置自転車数を指標とする。整備後の実測値で放置自転車がなくなることを見込む。	193台	平成16年度	0台	平成20年度
一人当たりの公園面積(大森町)	m ² /人	大森町における一人当たりの公園面積	安全で快適な生活環境の形成を示す指標とする。公園整備率が低い地域での率向上に向けて、一人当たり公園整備面積を指標とする。整備後は一人あたり約0.25m ² の増加を目指す。	0.59m ² /人	平成16年度	0.87m ² /人	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 「地域コミュニティの連携」 都市計画道路(南町宮崎町線)整備により地域コミュニティの連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路南町宮崎町線整備事業 ・都市計画道路源町大森町線整備事業 ・市道仁戸名町16号線他整備事業
<p>整備方針2 「交通結節機能の強化」 都市計画道路(源町大森町線)の整備、京成大森台駅前広場の整備により、交通結節機能の強化を図る。 バスベイの整備により、バス利便性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京成大森台駅前広場整備事業 ・都市計画道路源町大森町線整備事業 ・主要地方道千葉大網線バスベイ整備事業
<p>整備方針3 「地区内居住環境の改善・防災環境の向上」 生活道路の整備により、都市計画道路と連携強化、地区内住宅地の整備改善・防災環境の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市道仁戸名町16号線他整備事業 ・主要地方道千葉大網線整備事業 ・都市計画道路中央赤井町線整備事業 ・宮崎町74号線整備事業 ・(仮称)宮崎町449号線整備事業 ・宮崎町29号線他1整備事業 ・仁戸名町78号線整備事業 ・白旗9号線他2整備事業 ・都市計画道路中央赤井町線道路案内標識整備事業
<p>整備方針4 「地域コミュニティ活動の定着」 都市計画道路(南町宮崎町線・源町大森町線)沿道及び大森町に公園を整備し、地域コミュニティ連携促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広場公園整備事業 ・(仮称)大森町街区公園整備事業
<p>その他</p>	

